陽子線治療センター開設へ

札幌禎心会病院が来年2月

がんを防ごう

札幌禎心会病院（札幌市東区、徳田禎久院長）が、最新のがん放射線治療の一つ、陽子線治療を提供する準備を進めています。稼働をすれば、国内12カ所目、道内では北大病院（2014年開設）に次いで2カ所目です＝地図＝。治療開始は来年2月の予定。晴山雅人・陽子線治療センター長（70）に陽子線治療の特長や準備の状況を聞きました。

（編集委員　岩本進）

▲ 稼働に向けて準備が進む、陽子線治療センターの治療室。右側が治療台と陽子線の照射装置（札幌禎心会病院提供）

晴山雅人陽子線治療センター長

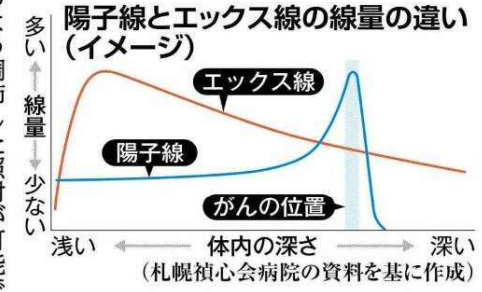
陽子線治療センターは昨年11月、東区北33東1に移転新築した同病院本館の西隣に建っています。鉄筋コンクリート4階建て、延べ床面積約2700平方㍍。この中に、巨大な治療装置が収められています。

「この新しい病院は、脳卒中、心臓病、がんの3大疾患を中心に専門性の高い医療の提供を目指しています。がん放射線治療にも力を入れています。その一つが陽子線治療です」と晴山さん。

■■■

陽子線治療は、陽子を加速させた陽子線を体外からがんに向けて照射します。

陽子線は、体内の一定の深さに達すると線量が急に最大になって止まる性質があり、がんの位置に合わせて線量が最大になるよう調節した照射が可能です。



（札幌禎心会病院の資料を基に作成）

従来の放射線治療のエックス線は、線量は体の表面で最大となり、奥深く進むにつれて緩やかに減少します。そのうえ、標的のがんや体を突き抜けてしまいます＝グラフ＝。

晴山さんは陽子線治療のメリットを「エックス線より破壊力が大きい。しかも、がんに効率よく照射できるので、周囲の正常な組織のダメージが少なく、副作用を少なくすることができます。エックス線治療が難しかったがんも治すことが可能」と強調します。

晴山さんによると、陽子線治療は、放射線の影響を受けやすい子どもや体の機能が弱い高齢者、近くに重要な臓器があったり大きなサイズでエックス線治療が難しいがん、などが適するとされます。国内では年間約3千人が治療を受けているそうです。

■■■

実際の陽子線治療はどのように進むのでしょうか。

患者は治療台に横になるだけ。照射装置が360度回転し陽子線を当てます。1回の照射は数分ですが、照射位置を正確に決めるため、全部で30分程度かかります。陽子線は目に見えず、痛みもありません。1日1回、週5日、数週間かけて何回も照射を受けます。

どんながんが治療の対象になるのでしょうか。晴山さんは「血液のがんを除くあらゆるがんが治療の対象です。脳腫瘍や頭頸部がんにも力を入れたい」と話します。ただ、がんの大きさや進み具合、全身状態などによっては治療を受けられないこともあるそうです。

■■■

スタッフは、放射線治療医3人、医学物理士4人、診療放射線技師5人、看護師4人、事務・クラーク2人の総勢18人。センターではいま、治療装置の調整など準備が進んでいます。

陽子線治療は装置や施設が巨額になるため、治療費も高額です。4月から小児がんが保険診療となりましたが、ほかのがんは保険診療が認められていません。

同病院は今後、既存の11施設と同様、国の先進医療で陽子線治療が実施可能な施設として申請を届け出て、認可を受けたうえ、来年2月には患者に対する治療提供を始める計画です。

先進医療になると、陽子線の治療費自体は全額患者の自己負担ですが、それ以外の診察、検査、薬剤などの費用が保険診療となり、患者の負担が軽くなります。同病院は、陽子線の治療費を既存施設並みの290万円程度に設定する方針です。晴山さんは「従来の放射線では治らない、治せない患者さんを陽子線で治したい。がんで苦しむ患者さんを1人でも多く助けたい」と思いを語っています。

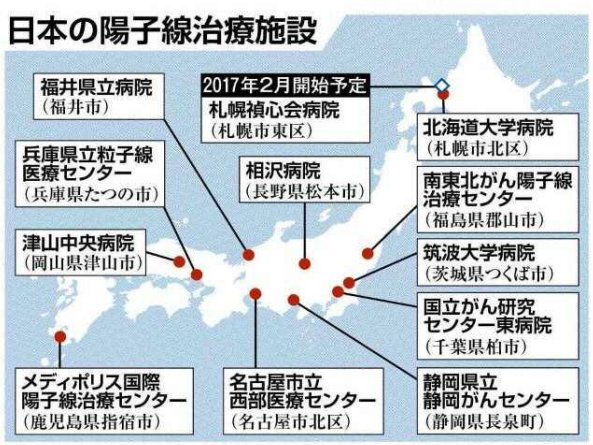
◇

札幌禎心会病院は、国の先進医療の届け出に必要な治療実績10例以上の条件を満たすため、11月末から陽子線治療を受けるがん患者10人を募っています。治療費は病院が負担します。対象は、前立腺がんと診断された成人で、通院できる方。重い合併症がないことなどいくつかの参加条件があります。主治医の紹介状なども必要になります。

治療は月曜から金曜日までの週5回で8週間程度。申し込みは先着順。希望者は、専用ダイヤル☎011・712・1134（平日午前9時～午後5時）へ。

また、医療講演会「からだに優しいがん治療―陽子線治療とは?」を16日午後2時から、同病院（東区北33東1）で開きます。講師は放射線治療科の高木克医師。無料。直接会場へ。問い合わせは、同病院☎011・712・1266へ。

日本の陽子線治療施設



道内2カ所目 効率よく照射、副作用少なく

北海道新聞は、がんから道民の命を守り、患者や家族らを支えるキャンペーンに取り組んでいます